

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0173100223		
法人名	社会福祉法人じねん		
事業所名	グループホーム愛敬(愛ホーム)		
所在地	上川郡愛別町豊里291番地2		
自己評価作成日	平成28年8月25日	評価結果市町村受理日	平成28年11月8日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・理念である「のびのび、ここに暖かく」「ゆっくり、いっしょに、楽しく」「長寿喜楽、敬老奉仕」を実践できるよう努力しています。 ・自然豊かな環境を活かし、利用者と屋外での生活を楽しむ事を多く取り入れています。 ・地域住民との交流を多く取り入れています。 ・自分が入所したいと思える施設を目標に努力しています。
--

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2015_022_kani=true&JigyosyoCd=0173100223-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ニッポン・アクティブライフ・クラブ		
所在地	江別市大麻新町14-9 ナルク江別内		
訪問調査日	平成28年9月26日		

<p>町の中心部より少し離れた長く連なる小高い山のすぐ前に、ひときわ明るい事業所があり、前方の山里の間には田園風景が広がり、静かで穏やかなゆったりとした環境に立地して秋の紅葉は見事である。町役場とは常に連携を取りあい信頼関係も厚く、地域住民に感謝を示す事業所の「納涼祭」が、町の行事としてくみ入れられ、多くの住民との交流を持つ場となっている。カラオケサークル、大正琴などのボランティアが来訪し、近隣の農家から野菜の差し入れがあるなど、地域と日常的に交流している。2階に広いミーティングルームを設け職員研修、来客との打ち合わせなど多目的集会場所として使用している。災害が起きそうな時には法人が経営する近隣の町にある「オレンジカフェ」に自主避難するなど災害対策にも万全を期している。高齢化する地域住民の安心の為に重要な役割を担っている事業所である。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価			外部評価		
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容		
I.理念に基づく運営								
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝ミーティング時に理念を唱和している。職員は理念を念頭に置き、ケアに取り組んでいる。	理念を解りやすい言葉で表現し、より具体的に表現した「介護20ヶ条」を掲げ、毎朝ミーティングにおいて確認し、より良い介護を実践している。				
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	納涼祭やクリスマス会等、地域の皆様や利用者と一緒に楽しみながら交流し、多数の参加がある。	事業所の「納涼祭」は町の行事に組込まれて地域住民と交流している。町の生涯教育に来るボランティアが継続的に訪れている。大正琴、カラオケ、フラダンス等積極的に受け入れている。				
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進委員会を通して「役に立つこと」について話し合いを行っている。ボランティア等の受け入れを多くもち、認知症の人の理解にいかしている。					
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	家族会、民生委員、行政職員、地域包括支援センター職員が運営委員となり、2ヶ月に1回開催し利用状況、生活状況等話し合い、サービス向上にいかしながら取り組んでいる。	2か月に1回定期的に開催している。町の福祉課長、地域包括支援センター職員、町内会長、民生委員、家族の方々との意見交換を行いサービスの向上に努めている。				
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	入所状況、行事予定の報告、開催等の協力を得ている。家族との連絡調整やお便りの配布作業、緊急時の協力体制も得られている。認定調査時や運営推進委員会議時、事業所や利用者の状況報告・相談・協力関係を築いている。	町役場とは協力体制が密であり、全面的な支援がある。山崩れなどが予想される時には町が巡回を強化し情報を共有している。事業所の「納涼祭」は町の行事として応援してくれる。				
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員一人一人が正しく理解し、身体拘束のないケアを行っている。玄関の施錠はせず、自由に入出入りできるように行っている。	職員は、「介護20ヶ条」を指針に、見回り、気配りを心掛け身体拘束を行わない取り組みを実践している。				
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ミーティング時等に虐待の防止について話し合いを行い、身体だけでなく、言葉や態度でも虐待がないか注意しながら対応している。					

グループホーム愛敬(愛ホーム)

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	ミーティング、外部研修で学ぶ機会を持ち、それらを活用し、必要な場面で対応できるようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に説明させて頂き、理解、納得を得ている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者・家族の意見・要望を受け入れ運営推進会議、家族会等でお聞きし、ミーティング等で話し合い、運営にいかしている。	利用者とは日常会話の中で、家族とは、家族会(年1回開催)、面会時などに意見、要望を聞き、ミーティング時に話し合っ運営に活かしている	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日々のミーティング、全体ミーティングを通して、全職員より意見を聞く機会を設けている。	年1回個人面談を設けている。又、ミーティングなどで職員と自由に意見交換ができるように努めて運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	面談を通し、職員の状況等を把握し、総合施設長、施設長と相談し、就業環境の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修に参加する機会を設け、報告書を作成し、内部研修を行い共有している。グループホーム協会に加入し情報交換も行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同一法人のグループホーム・小規模多機能との交流を行い、グループホーム協会に加入し、勉強会・研修会の参加、意見や情報の交換を行い、サービス向上に取り組んでいる。		

グループホーム愛敬(愛ホーム)

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の気持ちを第一に考え、日々の会話でコミュニケーションをとることで安心感のある関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の思いを聞き、良い関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用前に、家族よりお話を聞いたり、本人様と会話することで支援の見極めを行っている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人と会話、コミュニケーションを持つことで、暮らしやすい関係を築いている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日々の状況を伝えるとともに、ともに利用者を支え合えるような関係づくりに努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会時、ゆっくりと過ごしていただけるよう努めている。家族の協力を得ながら外出し、知人の来所があるよう努めている。	2か月に1回、当麻町にある理美容店の来所がある。家族、知人の来訪、地域の人が野菜を持って来たり、馴染みの人や地域と密接な関係が途切れないように支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の会話の中に誰でも入れるよう、介護員も会話に入り、孤立のないよう努めている。		

グループホーム愛敬(愛ホーム)

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退後も家族の方から連絡もあり、行事の参加やお手伝いもある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の希望にそった暮らしになるように思いを理解し、職員共通の認識を持ってケアに取り組んでいる。	日々の生活の中や家族との会話で、利用者一人一人の思いを把握し、職員全員で共通意識をもって利用者それぞれの想いに沿ったケアに努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式で聞き取りを行い、生活が大きく変わらないよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	会話や表情、日々の状態に変化がないか見守りを行い、職員間で引き継ぎを行い情報を共有し、状況把握を行っている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月1回のアセスメント、カンファレンスをし、介護計画は3ヶ月ごとに見直し、6ヶ月ごとに再計画をして日々の状態も把握し現状にあったケアに取り組んでいる。	介護計画は定期的に見直し、3人の職員が3人の利用者にかかわり、毎月1人づつずれていく支援を行って共通な認識の中で、職員誰もが利用者を理解するケアに取り組んで現状に即した介護計画を作成している	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケアの実践、結果等、介護日記に記載し、情報を共有することで実践や介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	通院、買い物、付き添い支援、農村公園での作業参加など、利用者の意向に応じた支援やサービスを行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアの訪問、警察や消防の協力を得ながら、安全で豊かな暮らしになるよう支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人が希望する医療機関への通院同行を行い、状況の把握・報告を行っている。	本人、家族の希望に添ったかかりつけ医に受診できるよう支援している。町立診療所へ家族と相談しながら職員が同行している。愛別歯科医が往診している。	

グループホーム愛敬(愛ホーム)

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	常に連絡が取れる体制にあり、相談を行い、健康管理に努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院生活が良好に送れるよう情報提供を行い、病院と連携し早期退院になるよう努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化、終末期の看取りの指針があり、事前に家族と話し合い、医師の指示を受けながら医療支援が受けられる体制をとっている。	入所契約時、看取り指針に基づきを説明している。利用者本人、家族の意向を大切に支援をしている。事業所では重度化対応に向け職員研修を行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救命訓練を家族・行政の方たちと共に定期的実施し、AEDの使用や応急手当等、実際に行いながら身に付けている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身に付けるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を実施し、避難の手順や初期消火等を身に付けている。	避難訓練を消防署の協力のもと地域住民、家族と共に年2回行っている。災害に対して防災の意識を強くもち早めの行動を取っている。先般の暴風雨時も法人が経営する当麻町の「オレンジカフェ」へ自主避難した。	町役場との良好な関係をさらに密にし、火災、自然災害など、緊急避難時の避難場所を確保、通行手段がなくなった時の対応などさらに検討する事を望みます。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人に対応し、思いや考え方の違いを受け入れ、個人を尊重した声かけをさせていた	個人情報やプライバシー保護については「介護20か条」を指針に一人ひとりにあった声掛けをしてプライバシーを損なわないように気を付けている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自分の思いを話していただけるよう会話を多く持つとともに、何かを行うときにはご自身で行うかどうかを決定していただくよう、声かけ支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	レクリエーションへのお誘い、天気の良い日の散歩等、一人一人に声かけし、参加の有無の確認をしている。ご自身で過ごし方を選択していただいている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	朝の身支度の際、一緒に選んでいただいている。		

グループホーム愛敬(愛ホーム)

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者とともに、野菜の皮むきやお皿洗いなど、一人一人の力に合わせお手伝いいただく支援を行っている。	地域から、地元の食材の提供を受けている。利用者と共に食事の準備をしたり、調理法のアドバイスを貰ったり、職員と一緒に会話を楽しみながら行っている	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人一人に合った食事量を考え、塩分制限のある方には味付けを工夫する等している。好まれる飲み物を提供し、水分補給につながる支援をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	ご自身で歯ブラシを使い口腔ケアをしていただいたり、毎食後のケアが困難な方には一部介助させていただき、口腔内の清潔を保つ支援をしている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	日中では特に紙パンツやパットに頼ることなく、トイレでの排泄を心がけている。	出来るだけ紙パンツを使用しないように利用者の排泄間隔を把握し、時間を見て対応。トイレでの排泄を心掛けている	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	朝のラジオ体操や、リハビリ体操を毎日続け、天気の良い日は外散歩するなど、体を動かすムズな排便につながるよう支援している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	お湯の温度など一人一人の好みに合わせたり、暑い日にはシャワー浴をしていただくなど、その時にあった入浴を支援している。	大きい風呂は月曜日と木曜日、小さい風呂は自由に。無理をしないで入浴を楽しめるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼寝や、体調の良くない時は和室や居室で横になれるよう対応している。夜は消灯までの間、テレビを見たり一人一人の習慣で過ごし、安眠へと繋がるよう対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	成分表と合わせ確認し日誌に説明を記し全員で目を通すようにしている。必要に応じてミーティングで報告している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者一人一人に好みや趣味を伺い、趣味等を楽しめる雰囲気作りや、一緒に楽しむ時間を作っている。		

グループホーム愛敬(愛ホーム)

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外気浴、外散歩を行い、運動不足にならないよう支援している。天気の良い日はドライブ等外出の支援も行っている。	一人ひとりの体調を考慮しながら散歩、日光浴を行っている。旭川市の郊外まで買い物に出かけたり、お花見、紅葉狩りなど外出支援を行っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族管理となっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望により電話をしたり、手紙のやり取りができるよう支援している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共同の空間では、音・光・温度・湿度など調整をし、安心して過ごせるよう配慮している。廊下の壁には利用者とともに作成した工作や壁画飾りや写真など、季節を取り入れた作品を掲示している。	回廊式の廊下から四季の移ろいが楽しめ、事業所の壁には職員と利用者が制作した壁飾りが飾られ和やかな雰囲気にも包まれている。6年前に事業所の2階に30畳程のフローリングのミーティング室を設け職員の研修などに使っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファや椅子に座りテレビを見たり新聞を読まれる、会話を楽しむなど思い思いに楽しまれている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族と利用者で相談され、自由に使い慣れたもの、好みのものを持ち込んでいただけるよう対応している。	各居室には、洗面台、ベット、防災カーテン、押し入れが備え付けられている。出窓形式の窓辺には、それぞれ思い思いの品が置かれ安心出来る場所となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人一人に対応した声かけを行うことにより、混乱等生じないように会話の内容にも注意しながら支援している。		